

～笑い飯哲夫さんとともに～

桜井市の歴史文化を巡ろう



日本に初めて仏教が伝えられた地・桜井市。教科書で見た歴史の舞台が、今もまちの風景の中で息づいています。今回は、仏教伝来ゆかりの地を巡りました。

交易・国際都市にもたらされた海外の教え

6世紀中ごろ、大字金屋

付近に営まれた宮（宮殿）

しきしまかなさしのみや

である「磯城嶋金刺宮」は、交易が盛んな国際都市でした。その付近では、日本の古い市場のひとつとされる「海柘榴市」も栄え、男女



海柘榴市観音堂と哲夫さん▲

うたがき
が歌を詠み交わす「歌垣」が行われるなど、物に加え人の交流も活発だったことが分かっています。

538年(552年とも)、当時隣国との争いで劣勢だった百済が日本に援軍を頼んだことがきっかけとなり、聖明王から欽明天皇に仏像・経典が送られたことが、仏教の公伝とされています。仏教とともに新しい文化が伝わり、都づくりや政治の仕組みが整えられたことは、飛鳥・藤原へと続く日本の国づくりにつながります。

仏教公伝を分かりやすく言うと「助けてくれたら面白い韓流ドラマ教えてあげるで」という感じです。



哲夫流・面白い仏教の考え方

仏教関連の書籍を多数出版するなど、仏教に造詣の深い哲夫さん。「世の中は諸行無常。イラッとしても、すぐになくなっていくので、一瞬一瞬に執着しない」「仏教の教えには数字がいっぱい出てくる。これは仏教がインドで生まれたから」など、分かりやすい仏教の考え方



佛教伝来之地碑にて、金屋区の皆さんと哲夫さん▲

方の解説は、通りかかった皆さんも思わず足を止め、聞き入ってしまうほどでした。

仏教は難しそうに考えられがちですが、実は奥深くて面白い考え方がいっぱいなんです。



仏教伝来の地（大字金屋）を訪れました。



笑い飯哲夫のちょっとひとこと

遣隋使の小野妹子が男であることを知つてから、随分と月日が経ちました。幸いその情報だけは失つていませんが、その間にたくさん大切なものを失つてきました。

小野妹子が隋から船で帰国し、最終的に到着した場所も海柘榴市だと言われています。隋の裴世清という役人も一緒に来たそうです。妹子は隋の皇帝である煬帝から大切な手紙を預かっていて、それを日本の推古天皇に渡さなければなりませんでした。しかし帰国の途中でその手紙を失ったそうです。

ちなみに妹子は、聖徳太子が書いた「日出づる処の天子、書を日没する処の天子に致す、つつが無きや」の手紙を煬帝に渡していました。これを読んだ煬帝は「天子は世界で一人だけだ。なにを偉そうに日本が天子を名乗っているのだ」と憤慨しました。

ということなので、もしかしたら妹子が預かった返事には、日本への誹謗中傷や罵詈雑言が書かれていたのかもしれません。となると、妹子はそれをわざと失つたことにして、他人を愚弄する卑劣な表現を世の中から抹殺したのかもしれません。もしその手紙が失われずに誹謗中傷の文面が日本で拡散されたら、一緒に来た裴世清も気まずい思いをしたのではないかでしょうか。

ブッダも誹謗中傷は受け取らず、受け取られなかつたお土産のように持って帰らせたそうです。

伝来の地から見る稜線にも注目

佛教伝来之地碑からは、三輪山・御破裂山・音羽山・二上山など東西に山々が連なり、流れるような稜線が見渡せます。自称・稜線マニアの哲夫さんも「昔の人も同じ景色を見ていたと考えると、ロマンを感じます」という、おすすめの景色です。